

ご 挨 拶

会 長 渡 邊 克 司

このたび、第33回日本核医学会総会を宮崎市にて開催することになりました。会長指名を受けて以来、その栄誉と責任を感じ、総会開催に向けて微力ながら教室員一同、全力をあげてその準備をすすめて参りました。幸いにも学会理事、評議員、さらに関係団体の方々からのご協力、ご支援をいただき、ここに開催するまでに至りましたことを深く感謝申し上げます。

今回の総会では、「高齢化社会と核医学」という基調テーマを考え、招待講演、シンポジウムを企画いたしました。高齢化社会における医療上の問題は、悪性腫瘍、痴呆を含む脳血管障害、心臓の虚血性疾患であると考えられ、これらの疾患の診断において核医学が果たす役割はきわめて大きいものと考えます。また、技術的な面から見ると PET と SPECT ということになり、このような観点からも、この方面の権威である方々に講演をしていただくことになりました。悪性腫瘍に関しては未だ臨床検査のレベルには達していませんが、標識モノクローナル抗体を用いた診断と治療はきわめて魅力的なテーマです。また、核医学は放射性医薬品と検査装置の進歩と開発が両輪となって開拓されてきたわけで、この方面についても考慮いたしました。以上のようなことから、海外招待講演 7 題、シンポジウム 3 題、教育講演 9 題となり、一般講演は 651 題となりました。会場と進行の関係から残念ながら招待講演やシンポジウムが同時開催となったことを了解していただきたく存じます。

従来どおり、2つのホテルを用いて学術発表と機器および薬品展示は行いますが、両会場はやや離れております。シャトルバスが運行しておりますが、景色の良い場所であり散策がてらに歩いても良い程度の距離です。10月といえば宮崎では最も快適な気候の季節であり、会場は最近リゾート地としてシーガイア、ゴルフ場、テニス場などの開発も進められております。学術集会が各位にとって実りあるものであることを祈念すると同時に、宮崎の地を楽しんでいただきたいものと思っています。

最後になりましたが、プログラム編成に当たっては、次頁の委員の皆様にご尽力をいただきました。誌面をかりてお礼申し上げます。次第です。

1993年 8 月